

令和5年9月5日

八戸市議会  
議長 小屋敷 孝 様

経済常任委員会  
委員長 久保 百 恵

### 視察実施報告書

本委員会は、次のとおり委員を派遣し、調査視察を実施したので、行政視察等実施要領第2（3）の規定により報告します。

- |            |   |
|------------|---|
| 1 日 時      | 令和5年7月24日（月）～7月26日（水）                                       |
| 2 視察先・調査事項 | 長崎県長崎市<br>（1）ワーケーションに関する取組について<br>（2）まちぶらプロジェクトについて         |
| 3 調査結果概要   | 別紙のとおり  |
| 4 派遣委員     | 久保 百 恵<br>壬 生 八十博<br>小屋敷 孝<br>豊 田 美 好<br>五 戸 定 博<br>吉 田 淳 一 |

## 【委員会調査報告書】

委員会名	経済常任委員会
派遣委員名	◎委員長：久保 百恵 ◎委員：壬生 八十博、小屋敷 孝、豊田 美好、五戸 定博、吉田 淳一
日 程	令和5年7月24日（月）から7月26日（水）まで
目 的	ワーケーション及びまちぶらプロジェクトの取組を視察し、 当市の観光、移住・定住及びまちづくり施策の参考とするため
視 察 先	長崎県長崎市（長崎市役所）
視察概要	<p>1 長崎県長崎市（その1）</p> <p>(1) 調査事項 ワーケーションに関する取組について</p> <p>(2) 説明者 企画財政部 移住支援室 室長 渡辺 清英 氏 係長 吉岡 利章 氏</p> <p>(3) 概 要</p> <p>① 背景・目的 「若い世代に選ばれる魅力的なまち」を目指すため、社会減対策として「経済を強くし、新しい人の流れをつくる」という目標を掲げ、若者や子育て世代が長崎に定着することや新たに住むことにつなげるもの。</p> <p>② 取組への考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略「経済を強くし、新しい人の流れをつくる」という目標の達成を目指し、魅力ある仕事づくり、移住促進の施策を推進している。</li> <li>・出島メッセ長崎の完成、九州新幹線西九州ルートの開業と長崎駅周辺の整備及び長崎スタジアムシティ開業など、100年に一度ともいえる大きな変化を迎えることから、新たな雇用機会が生まれることが期待される。</li> <li>・長崎市においてワーケーションの受入れを推進することは、新しい人の流れをつくり、将来的な移住者の裾野の拡大につながるものと考えられる。</li> </ul> <p>③ 具体の取組</p> <p>○ワーケーション・ネットワーク構築 ワーケーションに取り組む意向のある事業者、団体等のネットワークづくりの会議や専門家を招いた勉強会を開催する。</p> <p>○ワーケーション事前視察受入れ 法人ニーズの把握をするため、導入に向けた視察旅費を負担する。 (5社を想定。)</p>

## ○ワーケーション・モニター

個人ニーズの把握・課題抽出するため、モニターを募集し、滞在してもらう。

## ○ワークスペース社会実験

社会実験を行っている洋館にWi-Fi環境を整備し、ワーケーション滞在時に仕事をする場として活用する場合の社会実験を行う。



## 2 長崎県長崎市（その2）

(1) 調査事項 まちぶらプロジェクトについて

(2) 説明者 長崎市議会 梅元 建治 議員

まちづくり部 まちなか事業推進室 平山 広孝 氏  
橋本 歩実 氏

(3) 概要

## ① 背景・目的

歴史的な文化や伝統に培われた「まちなか」のにぎわいの再生を図るため、5つのエリアの個性や魅力の顕在化などを進めるための整備やソフト事業を市民などと連携しながら進めるもの。

## ② 計画の構成

## ➤ エリアの魅力づくり

各エリアにおいて、まちづくりの方向性を掲げ、各エリアが持つ特色を活かしながら、エリア内の魅力の向上に結びつくような取組を進める。

## ➤ 軸づくり

「まちなか軸」を基軸として、各エリア間の回遊性を高める環境の整備を行い、「陸の玄関口」である長崎駅周辺や「海の玄関口」である松が枝周辺等の周辺施設との連携軸の整備により「まちなか」への誘導を図る。

## ➤ 地域力によるまちづくり

地域や市民自らが企業や行政、NPO等の多様な組織と連携を図りながら、まちを守り、育て、創るために行動し、その集積が「まちなか」を支えるような地域力や市民力を結集する取組を進める。

## ② 具体の取組

○新大工エリア（商店街・市場を中心としたふだん着のまち）

- ・新大工町地区市街地再開発事業（北街区・南街区）
- ・片淵線の整備

○中島川・寺町・丸山エリア（和のたたずまいと賑わいの粋なまち）

- ・中島川寺町地区まちなみ整備
  - 回遊路（歩道等）の整備（市道出来大工町桶屋町線）
  - 夜間景観整備（中島川・眼鏡橋）
  - まちなみ整備（馬場骨董店）

○浜町・銅座エリア（長崎文化を体感し、発信する賑わいのまち）

- ・銅座界わい路地魅力向上（もやい通り）
- ・銅座川プロムナード整備
- ・浜町地区市街地再開発事業
- ・小野原本店修景整備

○館内・新地エリア（中国文化に触れ、食を楽しむまち）

- ・新地町稲田町線の整備
- ・唐人屋敷顕在化（誘導門・大門整備）
- ・唐人屋敷地区魅力発信（案内板設置、リーフレット作成）

○東山手・南山手エリア（異国情緒あふれる国際交流のまち）

- ・夜間景観整備（オランダ通り）
- ・文化財保存整備（旧長崎英国領事館・マリア園）
- ・歴史まちづくり計画策定



長崎県長崎市（ワーケーションに関する取組について）

・長崎市のワーケーションの取組については、人口減少対策の一環として長崎市企画財政部移住支援室が所管し、ワーケーションのネットワーク構築や事前視察の受入れ、個人モニターの募集、ワークスペース社会実験などの取組をされていた。ワーケーション・ネットワークの構築においては一から始めるのではなく、元々民間主体で活動していた所と連携し、共催イベントとして勉強会を開催したとのことであった。その際、ワーケーション施策全般の知識を持っている第一人者ともいわれる山梨大学の田中敦教授を迎えて基調講演をいただいたとのことであった。

ワーケーション推進での企業との連携においては、誘致企業と連携協定を結んだことで、人事制度や旅費等の規定、仕事と旅行のすみ分けをいかにするかなどの課題も出てきたとのことであり、企業側と行政が連携し課題共有することは、ワーケーション推進に資することだと感じた。

・二地域居住、副業、創業・事業継承、テレワーク移住等の検討者を対象とした令和5年度の新規事業「ながさきお試し暮らし応援事業」については7月現在整備中とのことであり実際の効果はまだ伺えなかったが、大変興味深い事業である。

・国は働き方改革や地方創生等の視点から「ワーケーション」の活用を推進しているが、まだまだ十分に普及されていない現状である。

・地域で「ワーケーション」を積極的に受け入れることは地方創生の観点から、旅行需要の創出、交流人口及び関係人口の増加、関連事業の活性化及び雇用創出、遊休施設の有効活用など大きなメリットが期待でき、「ワーケーション」を誘致することで地域と企業の関係性が構築され、地域経済や地域ビジネスの活性化が期待できるとされていることから、自治体として「ワーケーション」の受入れ環境を整備することは、地方創生の推進に寄与する大変有効な手段の一つだと感じた。

・今回得た長崎市のワーケーションに関する取組をはじめ、他都市の事例も注視しつつ、当市におけるワーケーション活用に対する現状と課題、受入れ環境の整備、導入検討、民間との連携等について考え、当市の発展に役立てていきたい。

所 感

所 感	<p><u>長崎県長崎市（まちぶらプロジェクトについて）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎市の歴史的な文化や伝統に培われた「まちなか」の魅力を高め、賑わいをもたらすことを目的とした「まちぶらプロジェクト」は、プロジェクトの趣旨に基づき「まちなか」の賑わいづくりに市民が主体となって実施する事業などが「まちぶらプロジェクト」に認定されており、長崎市が市民と連携しながら推し進める素晴らしい取組であった。新大工から浜町を経て、大浦に至るルートを「まちなかの軸」と設定し、その軸を中心に市内を5つのエリアに分け、エリア毎に「まちづくり」の方針を定めている。</li> <li>・今回の視察内では、「和」をテーマとした「中島川・寺島・丸山エリア」を散策させていただいたが、実際に「まちぶら」を体感するなかで、「眼鏡橋」だけではないエリアの魅力や、「和」のたたずまい溢れる風情ある景観、リノベーションされた施設などを散策し、少しの時間ではありながらも、十分に「和」の魅力と落ち着いた雰囲気を感じることができた。</li> <li>・「まちぶらプロジェクト」は、各エリアが持つ特色を生かしながら、各エリア内の魅力や個性がそれぞれ分けられており、しっかりとした方針の基に取り組まれている事業であることを実感した。</li> <li>・また、プロジェクトの計画構成は、「1)エリアの魅力づくり」「2)軸づくり」と続き、そして中でも重要視しているのが、地域力や市民力を結集する取組である「3)地域力によるまちづくり」とのことであり、「まちなか賑わいづくり活動支援事業」や「まちぶらプロジェクト認定事業」を勧めているとの説明の通り、「まちぶらプロジェクト認定事業」については、これまでに95件もの認定をされているとのことであった。このことから、「まちづくり」に対する地域や市民の関心度の高さが伺え、そして何より、地域や市民が一体となって「まちづくり」への行動を起こしているということが、プロジェクトの大きな成果の一つであることが伺えた。</li> <li>・「まちづくり」においては、地域に住む人たちが、まちを守り、育て、創るために行動することが大切であり、その集積として「まちなか」を支えるような地域力や市民力を集結させるための取り組み等を進めている「まちぶらプロジェクト」は、その目的や計画について大変共感できるものであり、長崎市の成果や取組を参考にしながら、当市のまちづくりの発展に役立てていきたい。</li> </ul>
-----	--